

第1学年B組 保健体育科学習指導案

日 時 令和5年11月4日(土) 第1限
場 所 第2体育館
指導者 岡南 遼

1. 主題(単元・題材)名 「身体で描く詩の世界」
(G ダンス ア 創作ダンス)

2. 目標

- (1) 詩のイメージや音の世界に入り込み、即興的に踊る楽しさを味わいながら、与えられた場に対し身体を二方向へ引っ張り合い梁を入れていく動きなどを通じて、仲間と関わり合い即興的に踊ることができる。〔知識及び技能〕
- (2) 表現や仲間との関わり、安全上の留意点などについて課題を発見し、自己や仲間が思考し判断したことを言葉や文章などで他者にわかりやすく伝えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- (3) 創作ダンスに積極的に取り組むとともに、自己の考えを述べるなど話し合いに参加し、仲間の学習を援助しながら、一人ひとりの違いに応じた表現や役割を認めることができる。〔学びに向かう力、人間性等〕

3. 単元の評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識	○技能		
<ul style="list-style-type: none"> 詩のイメージや音の世界に入り込み、即興的に踊る楽しさを言ったり、書き出したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた場に対し身体を内へ向かう運動と外へ向かう運動の二方向へ意識を向けながら踊ることができる。 仲間がその場で行ったアクションに対して、どのようにリアクションしていくかを通じて即興的な表現やハーモニーのある表現をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力の程度や性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための表現や交流を行う方法を見つけ、他者に伝えている。 学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> イメージの世界に浸りながら表現を行い、自己の考えを述べ、仲間へ手助けや助言をするなどして、学習に取り組もうとしている。 参加者全員が楽しんだり、達成感を味わったりするために仲間と交流しようとしている。

4. STEP との関わり

(1) 保健体育科としてのとらえ

ダンスはコミュニケーションツール（自己表現）として用いられることもある。言語を介したコミュニケーションではないため、年齢、国籍、性別などから制限を受けずに、他者とより良い関係を築くことができる可能性がある。「質の高い教育をみんなに」、「ジェンダー平等を実現しよう」といった項目と関連していると考えられる。また、ダンスを用いて世界で起きている課題を表現し、見ている側に問いを投げかける啓発活動も行われている。

(2) 育成したい資質・能力について

保健体育科では主として【協働】、【伝達・発信】を育みたい資質・能力として設定している。協働を単に力を合わせて課題の解決に向かう力と捉えるのみではなく、課題を共有している状態と捉える。創作ダンスの場合は、イメージを共有することが重要になる。単元の構成として、ペア活動や班活動を取り入れている。個人が捉えたイメージのまま表現を行うと、他者との間にズレが生じ、表現が滞ってしまい、まとまりのある表現になりにくい可能性がある。他者のイメージを動きの中で感じ取ることができるようにする。そうすることで、イメージの共有化が促進され、共有化されたイメージをもとに「何を、どうやって表現するのか」といった課題が浮き彫りになると考えられる。また、創作ダンスはイメージにもとづいて即興的に行われる活動であるため、生徒にとっては得意不得意が分かれる単元でもある。不得意な生徒にとってはどうやって表現したらよいのかわからず、動きが停滞してしまう可能性がある。その際、「わからない」立場にたった援助として、仲間の動きをまねしてみたり、一緒に動いてみたりするなど生徒同士の関わり合いで課題解決に向かう姿を目指す。そうすることで「できない」を出発点として協働が生まれるのではないかと予想される。

【伝達・発信】の観点においては、見ている側にイメージを膨らませることもダンスの側面としてある。見る側は何を表現しているのか相手の様子を感じ取る必要がある。創作ダンスでは言語を用いずに自己表現を行うため、体を使って工夫した表現や相手を感じ取る力を育むことができると予想される。

5. 単元について

ダンスの歴史を辿ると、ダンスは人類最古の文化であり、動物の動きの模倣を動きにとりいれた儀式や祭り、雨ごい、豊作祈願といった場面で行われてきたとされる。ダンスの語源は *desire of life*(生命の欲求)ともいわれ、常に人間の生活と深く関わりあい存在してきた文化といえる。人間は様々な思いや欲求を身体で語りかけ、生きる証として踊り、踊ることによって他者と共感・交流してきた。日本におけるダンス教育は明治期より始まり、西欧の影響を受けながら女子の種目として長らく実施されてきた。定型の振り付けを一斉教授する習得型学習（フォークダンス）から、生徒の主体的な創作学習（創作ダンス）へと転換し、男女共修に適応しやすい種目として現代的な音楽のリズムに乗って自由に動きを工夫して踊る「現代的なリズムのダンス」の導入、男女必修へと変遷をたどっている。

現在、学校体育で行われるダンスは創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスで構成されている。イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動で、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。中でも、創作ダンスは定型の振り付けから脱し、

自由なテーマを自由な形式で表現しようとしたモダンダンスやコンテンポラリーダンスにその起源をみることができる。モダン(modern)とは「現代的な」という意味を表し、モダンダンスでは目に見えない人間の心の内面を表現しようとしている。コンテンポラリーダンスは「現代のダンス」と呼ばれ、「モダンダンスの次のダンス」として生まれた。「現代的なダンス」は一つではなく、時代とともに進化し続けており、こうしたダンスを学校体育では「創作ダンス」としている。創作ダンスの特徴は決まった答えのない自由なダンスという点である。動物やスポーツ、乗り物といった目に見える題材から、人の感情、時間、季節など目に見えないものまで題材・テーマは自由である。「表現したいもの」に対して、体をめいっばいに使い表現する創作ダンスは「ほんものよりも大げさにみせる」といった特徴がある。

中学校学習指導要領解説には次のように示されている。

創作ダンスでは、多様なテーマから表したいイメージを捉え、動きに変化をつけて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ること。

この記述から創作ダンスではテーマに対して自らが表現したいイメージを捉え、動きを誇張したり、変化をつけたりして、思いつくままに捉えたイメージをすぐに動きにかえ表現することが重要であるといえる。

以上より、創作ダンスの中心なおもしろさを「イメージや音の世界に入り込み、即興的に踊る」と捉える。

6. 指導について

本単元では創作ダンスの中心なおもしろさを「イメージや音の世界に入り込み、即興的に踊る」と設定した。学習の構成は「詩を手掛かりに限られた時間や空間の中で、身体を使い、他者とともに空間を描く」ことに焦点をおく。

従来の創作ダンスでは「自由に」、「自分らしく」というキーワードが大切にされてきた。しかし、「自由に」と言われても、どのように動いたらよいかわからず動きが停滞したり、動きが単調になってしまったりする課題があった。そこで、本単元では創作ダンスを行う際に、制約を設けることで変化をつけた即興的な表現が生まれるように指導を行う。一つのポエムを制約に空間にどのように振り付けていくかを即興的に行うメソッドがある。これは、振付演出家の MIKIKO 氏が率いるダンスカンパニーで行われ、「ポエム」と呼ばれている。MIKIKO 氏はダンスの振り付けに関して、「空間を身体や身体から発せられるベクトルで建築する。どう梁を入れていくか。」と述べている。また、舞踏家のマリー・ウィグマン(1971)はルドルフ・ラバンの理論に関して「空間に関するダンサーの絶えまない関係の変化が運動を構成する。そして、内に向かう運動と外に向かう運動があらゆる運動の基盤をなしている。また、運動には垂直・水平・側方の三つの方向があり、中心を出発点とする各々に内と外の二つ方向があるから全部で六つの典型的な運動方向が存在することになる。これらはバレエやモダンダンス、舞踏の胚芽というべき性質である。」と述べていることから、「梁を入れる」とは身体を2つの異なる方向へ引っ張り合うように動かす体捌きと捉えた。「ポエム」を通じて空間に対して、「高い - 低い - 中くらい」など空間や隙間を見つけて身体で梁を入れていく創作ダンスの授業を目指す。「ポエム」に用いる詩は、ナナオサカキ氏の『ラブレター』より、「半径 1m の円があれば 人は座り 祈り 歌うよ」を使用する。詩の読み方によって時間の制約を加える。例えば、この詩は音読する際に、短い文章の中で4つの文節で区切ることができる。

それにより、時間の制約が生まれ、4つの音読の波形によって、リズムをイメージすることができる。そして、静と動を組み合わせたストップモーションを中心とした表現が生まれることが予想される。読み手によって変化する時間の制約を感じながら踊れるようにする。また、授業は班を中心とした4人組で行うことを基本とし、他者との関わり合いの中で空間をどのように描いていくかを探求する。他者がその場で行ったアクションに対して、どのようにリアクションしていくかを通じて即興的な表現やハーモニーのある表現が生まれることが予想される。

第1時では、詩の世界を身体で描く。詩を読み「どのような情景を描いているか」という発問を行い詩のイメージを捉える。そして、身体を使って詩から得たイメージを表現する。2人で一畳ほどの空間で行う。学習の見通しをつかむために、模範の映像を視聴する。

第2時では、詩を読み深め身体で描く。詩の全文から得るイメージを身体で表現する。映像教材(NHKアカデミア)を用いて、プロのダンサーはどのように表現しているのか視聴する。その際に「梁を入れる」体の使い方を学習する。身体が二方向へ引っ張りあう動きを意識しながら2人組で詩を表現する。次に、4人で同時に縦2m×横5mの空間で行い、次回の学習へつなげる。

第3時(本時)では、詩のイメージを交流しながら、他者の動きを感じ取り、変化をつけて即興的に詩の世界を描き出す。前時に引き続き、4人で縦2m×横5mの空間で行う。リレー形式で4人の動きをつなげていく。その際、前者がどのような詩の解釈をして表現しているか、など前者の動きを引き継ぎ、自らの解釈を身体で表現することを目指す。

第4時では、第1時から第3時までの学習のまとめとして「ひとまとまりの作品をつくる」を課題と設定し、動きに変化をつけて即興的に表現した作品を班で1つ作る。これまでの学習を踏まえ、個別で動くのか、群で動くのか、音読の有無などを工夫して作品を作り上げる。

7. 指導と評価の計画(全4時間) ○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」

時間	□ねらい ■学習活動	評価の観点			評価方法	育成したい 資質・能力
		知	思	態		
第1時	□詩の世界を身体で描くことができるかな? ■詩の情景をつかむ。 ■1人や2人でポエムを行う。	●	○	●	○学習カード ○行動観察	【協】 【伝】
第2時	□詩を読み深めて身体で描くことができるかな? ■2人や4人でポエムを行う。	●	○	●	○学習カード ○行動観察	【協】 【伝】
第3時 (本時)	□つなげたり、変化したりして詩を描くことができるかな? ■4人でポエムを行う。 ■リレーでポエムを行う。	○	○	●	○学習カード ○行動観察	【協】 【伝】
第4時	□まとめた作品にできるかな? ■4人でポエムの作品作り	○	○		○学習カード ○行動観察	【協】 【伝】

※育成したい資質・能力の表記は省略した名称で記述している。

根拠 ⇒ 【根】，じっくり・いろいろ ⇒ 【じ】， アイディア ⇒ 【ア】

問題発見 ⇒ 【発】， 問題解決 ⇒ 【解】， 振り返り ⇒ 【振】

協働 ⇒ 【協】， 伝達・発信 ⇒ 【伝】

8. 本時の指導

(1) 目標

① 詩のイメージに対して，身体を二方向へ引っ張り合いながら梁を入れていく動きで，仲間がその場で行ったアクションに対して，どのようにリアクションしていくかなど，即興的な表現やハーモニーのある表現をすることができる。 [知識及び技能]

② 4人で空間をどのように描いていくかを即興性やハーモニー性の視点から，表現や交流を行う方法を見つけ，他者に伝えている。 [思考力，判断力，表現力等]

(2) 指導計画 (50分)

学習活動	○指導上の留意点 ◆評価	育成したい 資質・能力
<p>1. 挨拶と体調確認を行う。</p> <p>2. 本時の内容を理解する。</p> <p>3. 準備運動を行う。 「なりきりウォーク」を行う。 音楽に合わせて歩く。提示された方法に応じて動く。 「建築家になろう」を行う。 ペアで行う活動。提示されたお題に対してペアの1人を建築作品として創りあげる</p>	<p>○出席確認と体調確認を行う。</p> <p><本時の内容> ・4人でポエムを行う。</p> <p>○教師が主導して動く。 「なりきりウォーク」の提示例：目線を誰とも合わせず。すれ違った人と目を合わせて会釈。すれ違った人と片手でグータッチ。すれ違った人とハイタッチ。など</p> <p>BGM ゆったりお散歩 (フリー音源) 建築家役と梁役に分かれ，梁役は自分の意志では動かないように注意する。 1回目は声だけの指示とする。お題「体育館」 2回目は声なしの指示とする。お題「鳥かご」 BGM ゆったり DIY2 (フリー音源)</p>	<p>【協】 【伝】</p>
<p>4. 前時の振り返りを行う。</p>	<p>○前時の振り返りと本時の課題を確認する。 <前時の振り返り> ・空間を描いていくことは詩のイメージから多様な身体の引っ張り合いの動きで梁を作っていくこと</p>	<p>【発】</p>

5. 本時の課題を理解する。	<p>を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梁を建てるイメージ ・詩のイメージを確認する。 	
【課題】 つなげたり，変化したりして詩を描くことができるかな？		
6. 4人で同時に「ポエム」を2回行う。場の大きさは縦 2m×横 5mとする。	<p>○1回目は教師の音読に合わせて「ポエム」を行う。 2回目は生徒が音読する。その際に，開始位置と終了位置のみを決め，3回の音読の間で終了位置までの空間を4人で動く。</p> <p><予想される生徒の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・動き方がわからずに停滞してしまう。 <p>→恥ずかしさが原因の場合は恥ずかしいと感じることも大切に，場の大きさを小さくするなどの手立てを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぶつかってしまう <p>→ポエムを行う前に安全の指導を行う。</p>	<p>【協】 【伝】</p>
<p>7. リレーで「ポエム」を行う。自分たちの動きをタブレットで撮影する。</p> <p>・撮影した動きを見返して，前後の人の動きを引き継いだり，変化をつけたりしながら動いているかを確認し，音読をせずにもう一度，リレー形式で「ポエム」を行う。</p>	<p>○順番をあらかじめ決めておき1人ずつ空間を移動していくリレー形式でポエムを行う。動く人がポエムを口ずさみ動く，最後は4人同時に行う。</p> <p><予想される生徒の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・何もせずに待っている。 <p>→待っている間も空間を構成している1人として存在していることを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動きがバラバラになってしまう <p>→ポエムを行うまえに，4人で同時にポエムを音読してタイミングを確認する。</p> <p>→途中でずれてしまっても最後まで自分のペースで踊り続けることを伝える。早く終わった場合は最後のポーズで固まっておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆前後の人の動きに応じた動きと変化を組み合わせで表現している。〔知〕 ◆表現方法について，即興性やハーモニー性の視点で話し合っている。〔思〕 	<p>【協】 【伝】</p>
8. 振り返りを行う。	○空間を描く際に他の人との関わりの中で意識した	【振】

振り返りシートに記入する	ことや、難しかったことを記述するよう促す。個人思考を深めるために集中しやすい環境をつくるように促す。	
--------------	--	--

<引用参考>

- (1) 「無料 BGM・効果音のフリー音源素材」. Springin. <https://www.springin.org/sound-tock/category/bgm/>, (参照 2023-10-11) .
- (2) ナナオサカキ (2010). ココペリの足あと. 思潮社
- (3) 「NHK ラーニング NHK アカデミア」. NHK. https://www2.nhk.or.jp/learning/academia/video/?das_id=D0024300122_00000 (参照 2023-10-11)
- (4) マリー・ウィグマン, 河井富美恵 (訳) (1971). 舞踏の表現. 大修館書店, p.7